

## 異文化との出会い

大連理工大学

黄青君

時の流れは早いもので、私の交換留学生活もまもなく終わりを迎えようとしています。約半年にわたる留学期間の中で、私はさまざまな国から来た人々と出会い、異なる文化を自らの体験を通して学ぶことができました。

日本では、多くの店が夜の8時か9時には閉店します。夜になると街は静まり、人通りも次第に少なくなります。一方、私の故郷である中国・湖南省では、深夜まで営業している店が多く、夜こそが一日の中で最もにぎやかで活気に満ちた時間帯です。そのため、日本に来た当初は、この「夜の静けさ」に寂しさを感じました。また、食文化の面でも違いが見られます。日本の飲食店では氷水が提供されることが一般的ですが、中国では温かい水を飲むことが健康によいと考えられています。

日本には学ぶべき点が数多くあると思います。例えば、街中などの公共の場で、無断で喫煙する人がほとんどありません。地下鉄では、人々が静かで、他人に迷惑をかけないように配慮しています。さらに、私が驚いたのは、同じ授業を受けている学生の中に、年齢を重ねた方がいらっしまったことです。彼女たちは授業中、積極的に議論に参加し、自身の考えや経験を惜しみなく共有していました。そのたゆまぬ学習姿勢に、私は心から敬意を抱いています。彼女たちの姿から「生涯学習」という言葉を深く理解しました。

もちろん、価値観、生活習慣、社会的ルールなど、さまざまな違いに直面する中で、戸惑いや不安を感じることもありましたが、異文化を理解していく過程で、視野が広がり、これまで当たり前だと思っていた自分自身の考え方を見つめ直すようになりました。異文化との出会いは、他者を理解する過程であると同時に、自らの成長を促す貴重な経験でもあるのではないのでしょうか。

最後に、指導教員の武藤先生、チューターの香澄さん、国際課の先生方、すべての授業担当の先生方、音羽館の管理スタッフの皆様に、心より感謝申し上げます。皆様の温かく丁寧なご指導やご支援のおかげで、楽しくて充実した留学生活を送りました。

